

経営比較分析表（令和元年度決算）

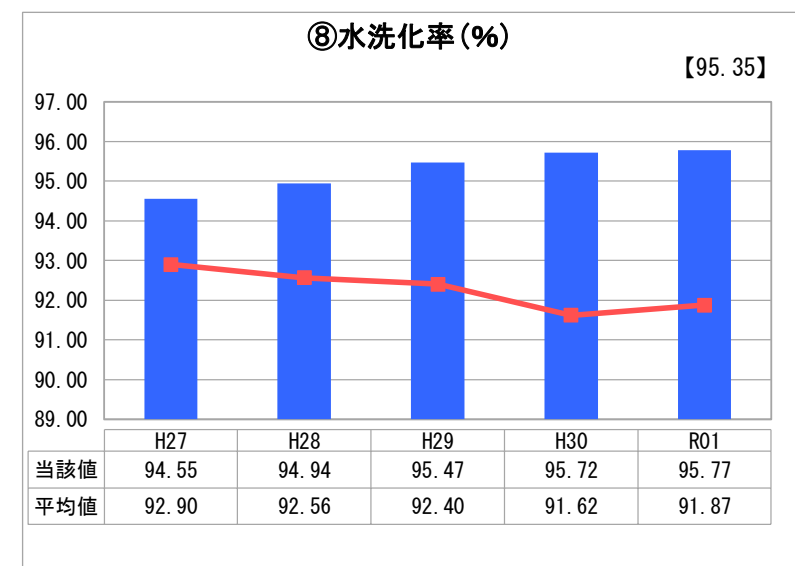
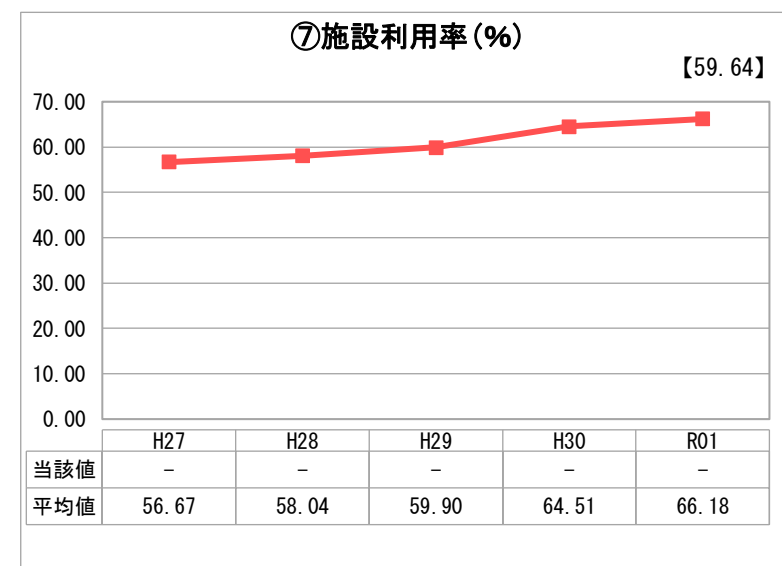
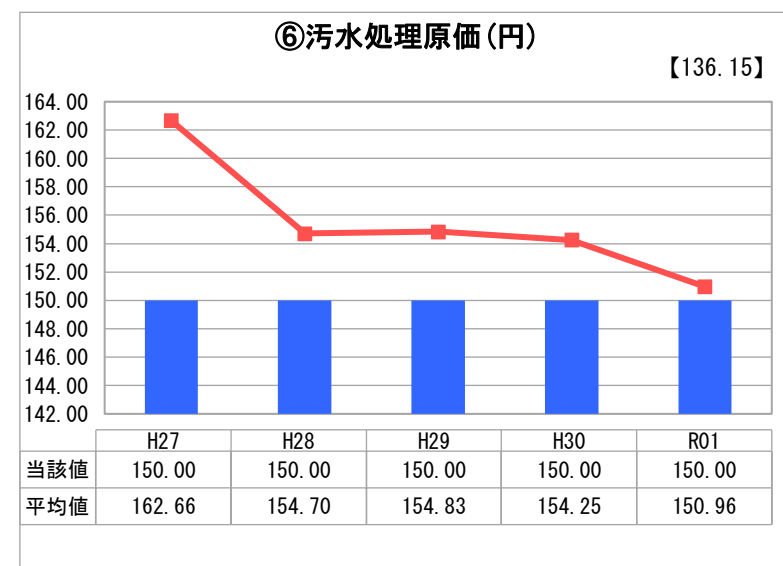
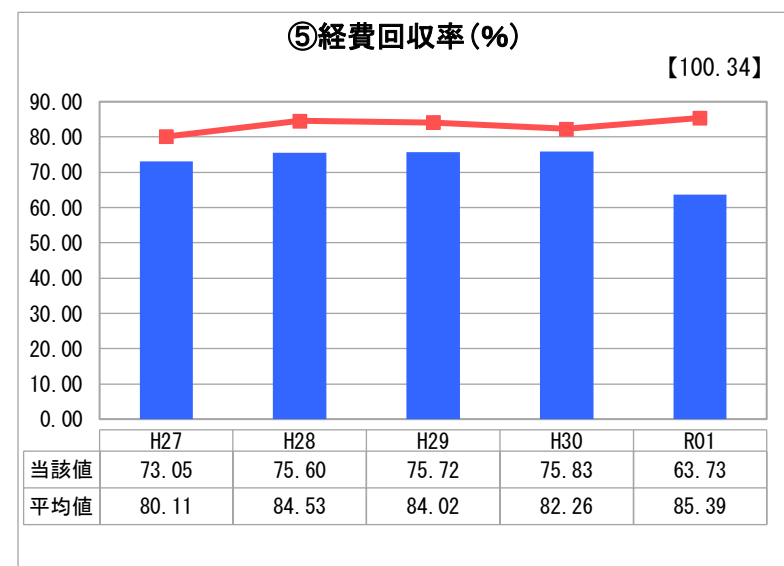
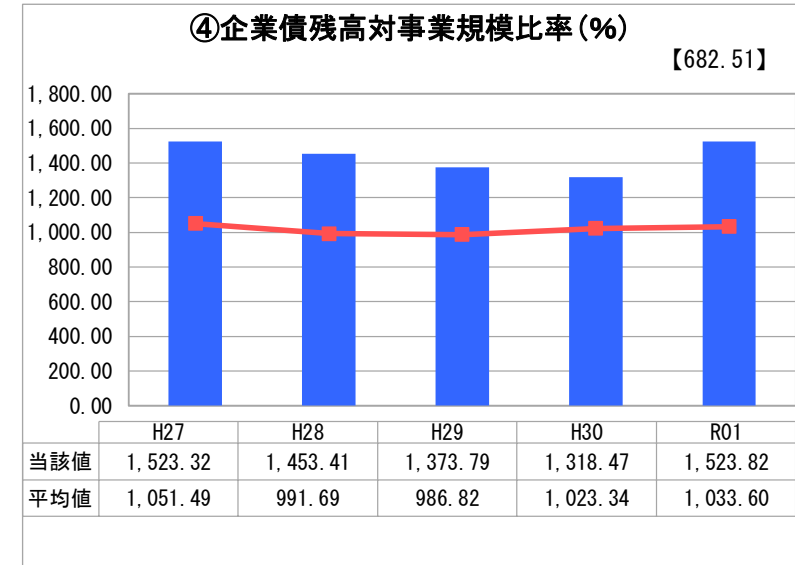
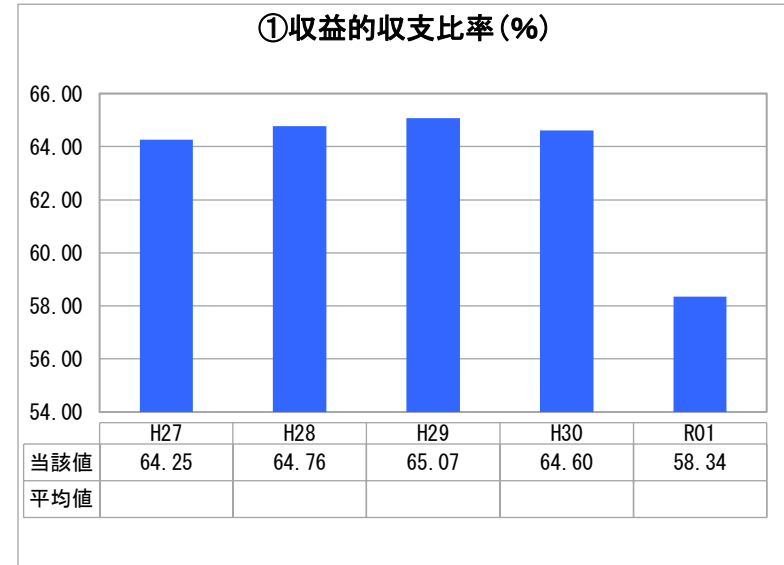
埼玉県 白岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	69.12	84.28	2,070

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
52,404	24.92	2,102.89
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
36,226	5.03	7,201.99

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
平成27年度に下水道使用料改定を実施したことに伴い、収益的収支比率は上昇傾向であったが、令和元年度は大きく減少している。これは、地方公営企業法適用に伴う打切決算の影響で、未収金、未払金が発生したことによるものである。収益的収支比率が100%を下回っている状況のため、経費削減等の経営改善に向けた取り組みが必要である。

④企業債残高対事業規模比率(%)
類似団体平均値と比較して、高い水準となっているが、これは当市がこれまでに公共下水道整備を積極的に実施してきたため、企業債残高が多くなっていること、使用料水準が類似団体よりも低いことが理由と考えられる。令和元年度で増加に転じたが、これは地方公営企業法適用に伴う打切決算の影響で未収金が発生し、営業収益が例年より減少したことによるものである。管渠や施設の改築更新等に備え、定期的な料金設定の見直しを実施する必要があると考えられる。

⑤経費回収率(%)
令和元年度で大きく減少したのは、地方公営企業法適用に伴う打切決算の影響で未収金、未払金が発生したことによるものであるが、平成30年度以前も類似団体平均値より低い水準にあり、汚水処理に係る費用を使用料で賄われていない状況が続いている。今後改築更新等が見込まれ、汚水処理費の増加が予想されるため、更新費用等に充てる財源を確保しつつ、適正な使用料水準の確保が必要と考えられる。

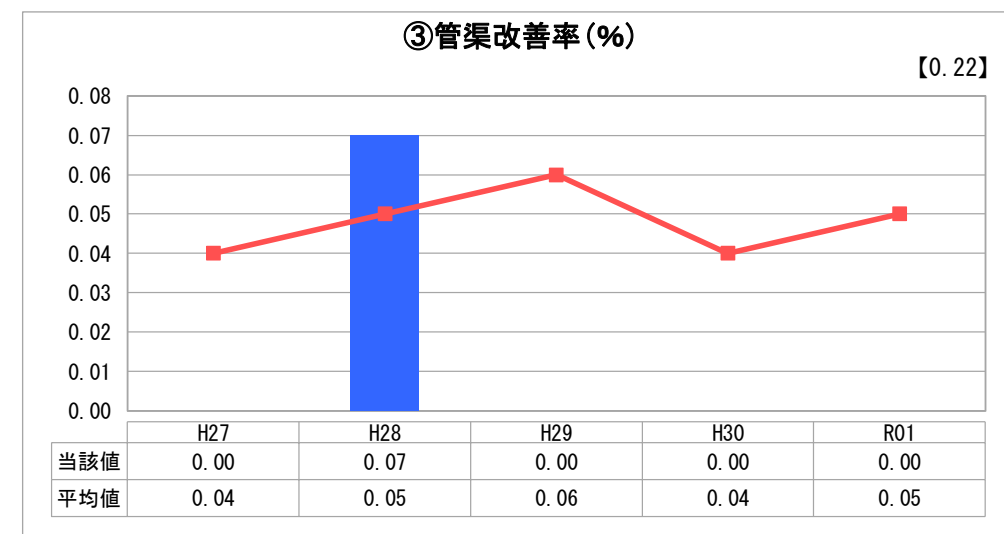
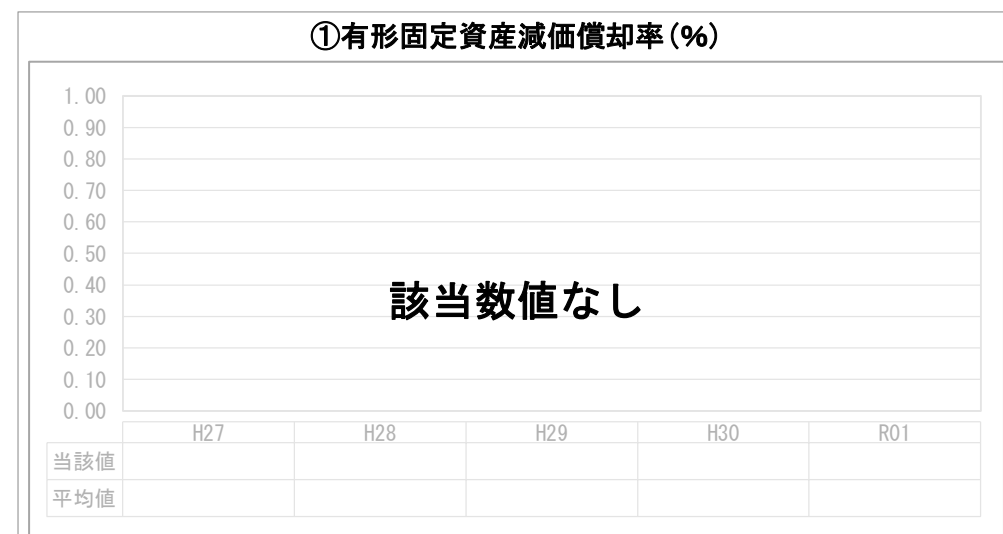
⑥汚水処理減価
分流式下水道等に要する経費に対し、一般会計からの繰入を行うことにより、安定した汚水処理コストを維持している。しかし、今後改築更新等が見込まれ、汚水処理費の増加が予想されるため、水洗化率を向上させ有収水量を増加させる取組が必要であると考えられる。

⑧水洗化率
平成29年度末に宮山団地地区の供用開始したこともあり、上昇傾向にある。また、類似団体平均値よりも高い数値となっているが、今後も水洗化率の向上に努める必要があると考えられる。

2. 老朽化の状況について

当市における老朽化の状況については、法定耐用年数を超えた管渠はないが、平成28年度は硫化水素が原因と思われる管渠の腐食があったことから、管渠の改築工事を実施した。今後、法定耐用年数に到達する管渠があることから、改築等の財源の確保や経営に与える影響等を踏まえて、経営改善の実施や投資計画等の見直しを行う必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

汚水処理費を下水道使用料で賄える料金設定となっていないことから、現状、基準外繰入金を受け入れることにより不足額を補填している状況である。当該状況を是正するため、平成27年度に料金改定を実施し、一定程度の改善が見込まれたものの依然として経費回収率は類似団体平均値よりも低く、不足額を補填する状況の解消には至っていない。今後は改築更新等が見込まれ、汚水処理費の増加が予想されることから、更新費用等に充てる財源を確保しつつ、適正な使用料水準の確保に努めなければならない。そのためには、経費削減、水洗化率の向上、定期的な料金設定の見直しによる使用料収入を増加させる等の取組が必要である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。